

2020.11.7

紙つぶて

このところ、国会の本会議中にスマホをいじっていたり個人的な読書にふけていたり、という「内職」がよく報道されている。国民の税金を多額に使うって運営されている国会をサボって内職とは何事か、という怒りは私もわかる。

しかし同時に、日本の国会が非常に形骸化して、創造力がないのも事実だ。特に本会議は単なるセレモニーで、事前に準備された原稿を読み合っただけ。議論は進展しない。時間の無駄と感じる人がいてもおかしくない。

本当に政治を動かすには、「この法案だけは通す」と固く誓った議員が、あちこちを走り回って了解をとりつけて、ようやく形になる。汗をかく



国会を動かす

水島 広子

人がいなければ、いくら「賛成」と言っても法案審議にすら持ち込めない。議論の場としてまだ生産的なのは各委員会である。私も衆院議員時代、質問することによって少なからぬ重要な変化を起こしてきた。

当時、国会派遣でノルウェー国会を視察した。日本では委員会は「政府から言質をとる」ためのものだが、ノルウェーは主に非公開。政党間の協力の下、どれほどの法律を作り上げられたかが議員の評価を決める。「敵か味方か」ではなく、ある意味「超党派」なのである。二大政党制ではありえない話だ。形骸化した国会でスマホをいじらなければよいという甘さではない。(精神科医)